

名古屋大学

## 国語国文学

102

2009年11月

方丈記末尾の「不請阿弥陀仏」の主意について	岡山 高博 (1)
『西鶴名残の友』と玖也『道の記』	山田 和則 (15)
生殖の拒絶—『それから』における花のイメージ—	西原 志保 (29)
階級と民族の《間》—金達寿論—	廣瀬 陽一 (45)
サド裁判における澁澤龍彦の闘争—弁護人の言説との比較から—	水川 敬章 (59)
日本語研究史における副詞の位置付け	中尾比早子 (90)
キリシタン・ローマ字文献のウ段長音の表記について	千葉 軒士 (104)

書評 瀬崎圭二著『流行と虚栄の生成 消費文化を映す日本近代文学』	光石亜由美 (105)
軍記物語と〈教育〉—高木 信『「死の美学化」に抗する 『平家物語』の語り方』—	榊原 千鶴 (113)
鬼子の体臭を嗅ぐ—中村誠『金子光晴 〈戦争〉と〈生〉の詩学』	坪井 秀人 (119)

## 新刊紹介 米村みゆき・佐々木亜紀子編

『〈介護小説〉の風景—高齢社会と文学』	李 明喜 (127)
岡本 勝著『近世文学論叢』	服部 直子 (130)
安田徳子著『地方芝居・地芝居研究—名古屋とその周辺—』	
安田文吉・安田徳子著『ひだ・みの地芝居の魅力』	早川 由美 (134)
櫻井豪人編著『三語便覧 初版本影印・索引・解説』	永井 圭司 (135)
正田雅昭・日高佳紀・日比嘉高編著 『スポーツする文学 1920-30年代の文化詩学』	竹内 瑞穂 (136)

名古屋大学

国語国文学会

## 編集後記

新型インフルエンザ騒ぎの中、会誌百二号をお届けします。

今回の論文は、日本文学関係が五本、日本語学関係が二本です。書評や新刊紹介また彙報の記事とともに、会員の元氣な活動をご覧ください。

「国文学（日本文学）・国語学（日本語学）」の重要性は、その研究が文化学や比較人文学へと学際化し国際化しつつある現在、その逆境とは裏腹に、ますます強まっていると思われます。

運営委員会においては、実質的に機能していない常任委員会とともに、その廃止や改編を含めた改革の議論を交わしました。各委員の皆さんが、ますます多忙な中、ともかく積極的に参加してくださることを願います。

また、会員の皆様との交流は、「会報」によって心がけています。それも含めて、皆様のご意見をお寄せください。

（高橋 亨）

名古屋大学国語国文学 第百二号

印刷 平成二十一年十一月十日

発行 平成二十一年十一月十日

編集 名古屋市千種区不老町

名古屋大学文学部内

名古屋大学国語国文学会

（代表）高橋 亨

（振替 00860-0-19333）

TEL（〇五二）七八九一二四二

内線二二四二

印刷所

名古屋市瑞穂区苗代町二九一二〇

株式会社 アイコー社

TEL（〇五二）八二二一九五一